

——家事的生活時間を中心に——

愛知教育大 ○松田澄子 久世妙子 渡辺みよ子 金沢扶巳代

【目的】 第1報に同じ。本報では、家事的生活時間の実態について、特に婦人の年代・就労形態による違いを中心に報告する。

【方法】 第1報に同じ。

【結果】 全体的にみて、家事的生活時間の合計は、平日が約6時間半、休日が約7時間で休日の方が長い。家事作業内容では、炊事、洗濯、育児・子どもの世話、掃除、買い物で約8割を示し、特に炊事の占める割合が多い。一方、裁縫、看護、庭の手入れの時間は短い。炊事と洗濯の時間は、平日と休日で大差はみられないが、掃除と買い物については、年代や就労形態と関係なく、平日より休日の方が長い傾向が認められた。

(1)年代別：平日では、30歳代の家事的生活時間が最も長く、次いで20歳代、40歳代、60歳以上、50歳代の順となり、休日では、20歳代が最も長く、年代が上がるほど短くなる。家事作業の内容をみると、20歳代・30歳代では他の年代に比べ、育児・子どもの世話の時間が長い。50歳代と60歳以上では、炊事、洗濯、掃除が他の年代より短い。庭の手入れについては、逆に短い。

(2)就労形態別：平日では、無職の家事的生活時間が最も長く、内職、家業従事、パートの順にその時間が短くなり、常勤が最も短い。これに対し休日では、常勤が最も長い。また、平日と休日とを比べると、常勤やパートでは休日の方が平日より長いのに対し、無職と家業従事では休日の方が短い。家事作業の内容をみると、育児・子どもの世話については、平日では無職と内職が長い。休日では常勤が最も長い。